

科目名	社会調査技法		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2022 年度 後期	単位数	2
担当教員	成澤 徳子		
内容および計画	現代社会は、どのように情報を得て、そして得た情報をどのように活用するかが重視される時代です。社会調査は、収集したデータから社会で起きていることを明らかにする手法で、「国勢調査」や「世論調査」、「マーケティング・リサーチ」などをはじめ、私たちの日々の暮らしのなかでさまざまな用途に用いられています。複雑な現代社会の実態を正確に捉えるためには、それら調査の信頼性や妥当性を検討できるように、正しい調査技法を身に着けることが重要です。この授業では、社会調査の意義と具体的な手法、社会調査の歴史と調査倫理などについて、調査の実例を紹介しながら説明します。		
1	ガイダンス（学習内容、講義の進め方と評価方法の説明、受講生の関心についてのアンケート）、社会調査とは？		
2	社会調査史の概略、現状と課題（調査倫理とリテラシー）（オンライン）		
3	社会調査の目的と方法、調査の企画と設計（オンライン）		
4	量的調査、統計的調査、調査票調査		
5	国勢調査、世論調査、マーケティング・リサーチ（オンライン）		
6	調査対象者の選定、サンプリング（オンライン）		
7	質的調査の方法		
8	聞き取りと参与観察、フィールドノートの作成（1）		
9	聞き取りと参与観察、フィールドノートの作成（2）		
10	調査票の回収とコーディング（オンライン）		
11	データ入力とデータクリーニング（オンライン）		
12	分析と仮説検証① 統計的検定（オンライン）		
13	分析と仮説検証② 多変量解析（オンライン）		
14	調査票の作成（グループワーク）		
15	調査票の作成（プレゼンテーションとディスカッション）		
教科書			
	タイトル	著者名	出版社
			ISBN
			発行年
特定の教科書は使用しません。スライドを用いて講義を行います。講義に必要な資料は配布します。			
参考書	1. 轟亮・杉野勇・平沢和司（編）『入門・社会調査法[第4版]—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社、2021年（ISBN: 9784589041418） 2. 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋（編）『新・社会調査へのアプローチ—理論と方法』ミネルヴァ書房、2013年（ISBN: 9784623066544） 3. 佐藤郁哉（著）『ビジネス・リサーチ（はじめての経営学）』東洋経済新報社、2021年（ISBN: 9784492503287） 4. 佐藤郁哉（著）『フィールドワーク[増訂版]—書を持って街へ出よう』新曜社、2006年（ISBN: 9784788510302） 5. 谷岡一郎（著）『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』文藝春秋、2000年（ISBN: 4166601105） その他の参考文献は、講義のなかで適宜紹介します。		
成績評価			
	評価方法		割合(%)

学期末に提出する課題レポート	40
授業出席時に毎回提出するリアクション・ペーパー	40
授業中に取り組む課題（調査票の作成とプレゼンテーション）	20
講義形式により知識を得たあと、考えたことをリアクション・ペーパーとしてまとめます。その次の回の前半で、リアクション・ペーパーの中から、コメント・質問をピックアップして講師が回答します。成績は、期末レポートの内容と、授業への積極的参加（リアクション・ペーパーの提出、課題への取り組み）により総合的に評価します。	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な社会調査の技法を習得し、各種の調査法から得られた結果を適切に判断・説明できるようになる。 ・自己の関心や社会的ニーズから、適切な調査テーマや対象、調査方法を設定することができるようになる。
先修条件	事前に必要な知識・スキルは特に要しませんが、統計学をあわせて履修することを推奨します。
実務経験	大学院生時代から現在まで、アフリカや日本の地方において社会調査に従事してきました。研究活動だけでなく、日本留学のコーディネーターとしてアフリカ各国で働いた経験もあります。こうした経験をもとに、社会調査の基礎と応用について教授します。
その他	調整がつけば、キャンパス周辺でのフィールドワークもおこないます。 この授業を通して、社会を読み解くためのデータをとる難しさと面白さにぜひ触れてみてください。